

9月県外医史跡めぐり・国東半島へ

9月16日(月)です。3連休の最後ですが、今年はなかなか行けない国東半島の三浦梅園や杵築藩医佐野家の見学をします。途中、道路沿いの石仏や国宝の富貴寺大堂なども見学予定です。遠いので朝早くですが、とても楽しい旅になること間違いありません。いまから予定に入れておいて、お友達もお誘い合わせて、ご参加ください。現在のおよその日程案は以下の通りです。

9月16日(月)7時イオン北駐車場出発～9:30三浦梅園資料館～10:30富貴寺大堂～11:00元宮磨崖仏(真木大堂)～11:20風の郷(0977-75-1126)バイキング料理～13:00杵築藩医佐野家～14:00杵築城下資料館～15:00回天大神基地～15:45万里図書館～16:15日出バイパス～18:45大和インター～18:50イオン駐車場着～解散。

8月初めに会報で特集を組みますので、その折りに参加募集要項も作製します。大勢ご参加ください。

佐賀医学史話

我が国薬学界の立役者丹羽藤吉郎

丹羽藤吉郎について、鍵山稔明会員の『佐賀薬学概史』(佐賀新聞社)で初めてその存在を知った。丹羽藤吉郎(1856-1930)は、安政3年2月2日、佐賀藩士丹羽与左衛門の二男として生まれる。明治4年(1871)に佐賀藩の貢進生に選ばれ、大学南校(のちの東京大学)で学ぶ。

※貢進生とは、明治3年(1870)に、明治政府が各藩へ石高に応じて1～3名の大学南校での留学生を推薦させる制度を開始した。この推薦された生徒をいい318名が選ばれて南校で学んだ。学資の多くは明治政府からの支給であった。

このとき一緒に上京したのが、フグ毒の研究者として著名になった田原良純であった藤吉郎は、最初ドイツ語学科に入学したが、やがて製薬学科に転科。東京大学卒業後助手、助教授を東大で務めていた。

文部省が製薬学科廃止の方針を出したとき、文部大臣と交渉して近代社会における製薬の必要性を説き、製薬学科の存続を主張し、存続させたという。のち、ベルリン大で製薬化学をまなび、明治40年に東京帝大教授となり、合成染料インジゴなどを研究した。日本薬剤師会会長を3期、日本製薬協会会長も務めた。医薬分業にも尽力した。薬剤師か薬師かと日本近代薬学界の恩人ともいわれる。昭和5年3月12日死去。75歳。多磨霊園に眠る。位置は6区1種9側3番

なお、明治20年前後に、薬品営業並薬品取扱規則(薬律)の公布が検討されていたときのこと、薬剤師にするか、薬師にするか議論があった。

丹羽藤吉郎は、医師というのだから、薬師がよいと主張した。この規則をつくる立場に



あった柴田承桂（1850～1910、尾張藩出身）は、薬剤師を主張した。内務省での審議で、この2つのうち、薬師は、薬師如来などの仏教的要素も強いので、薬剤師としようということになったといわれる。

佐賀医学史話

諫早の社会奉仕医師土橋多助

諫早史談会の光富博氏から「医者土橋多助の研究」（『諫早史談』45号、2013年3月）という研究抜刷をいただいた。江戸時代後期に諫早で医療のほか、架橋や寺子屋師匠などの社会・教育活動も行った医師である。貞恵翁ともいう。光富氏の論考や貞恵翁年譜なども参考にその概要を紹介する。

土橋多助は、安永5年（1776）多良岳の麓、長田村（現諫早市長田町）に生まれた。多良岳の金泉寺で読書、習字を学んだ。天明7年（1787）、数え12歳のときに佐賀へ奉公にでた。佐賀の諫早屋敷や佐賀の原謙斎家に仕えているうちに医学に志し、寛政4年（1792）、16歳で、長崎の医師吉松道碩（蘭方医という）に医術を学んだ。文化2年（1805）に免許皆伝となり、先生より土橋永春の号をもらい、森山村杉谷（諫早市森山町杉谷）で開業した。

医療活動は順調で富豪になったが、質素儉約をして、知足庵と号した。天保年間に諫早家が財政難に陥っているとき、金300両を献金した（『郷土誌』諫早高等小学校編纂、1916年）。

安政3年4月13日の多助の日記（諫早市立図書館蔵）に、次の記事がある。

一、土橋多助江被相渡候書付左之通

其方儀、御家中御取立為補田地四拾石余作徳米之内三拾石六斗永代学館江献米扱又、橋再建方其外、諸人之為奇特之志を尽し、別而殊勝之至二被思召候、依之今般居屋並畑地・山林東而五段三畝十四部（歩）九合五勺永々御用除地被仰付候、辰四月（光富論文所収）

多助は、家中に取り立てられた補い（御礼）として、田地40石余、作徳米30石6斗を学館（藩校好古館）へ寄付した。また道路改修や架橋などの功績により、領主は多助所有の屋敷や畑地、山林を除地（年貢免除地）としたという内容である。

その後も貯水池をつくり、また寺子屋師匠もして、地域住民の生活を支えた。慶応元年（1865）に、数え90歳で亡くなる。墓は森山東小学校脇の土橋家墓所にある。現在も森山東小学校などでは、「土屋貞恵翁祭」を毎年行っているという。



諫早市健康保険センター森山文館前土屋多助翁碑

編集後記

6月下旬に前山隆太郎会長が体調不良で入院され、役員でお見舞いに伺いました。現在は退院され、お元気ですが、医学史研究会の役員体制は、当面、鍵山稔明氏に会長代行、青木が事務局長、相良隆弘氏に副事務局長（含会計）ということで、運営していくことになりました。

51号に丹羽藤吉郎、土屋多助についての記事を載せました。会員の皆様からも多数の情報をお寄せくださるようお願いいたします。

ドイツから日本医学史研究者ケーザー先生が来日し、前山会長、青木、相良、樋口会員が7月3日本丸歴史館で会談しました。詳細は次号で。